News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
発行責任者：校長　櫻井郁男
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年５月２４日　　No. 4

在外教育施設派遣者を囲む会で、補習授業校派遣者が質問に苦笑している事があります。「授業のない日は何をしているの・・・。」かつて私も補習校の校長先生に聞いた一人です。(失礼しました)。

派遣教員の職務は明確にされていますが、私は先生方が、「よい授業」を行い、私は「よい環境」を整備し、本校に集う全ての方々と「よい関係」を築くことが肝要と心得、授業のない日は指導案・指導報告に目を通しています。

では、教頭はどのようなことを願い「激務」を激務と思わず、日々勤しんでいるのでしょう。

・・・・・・・・・教頭から先生方に宛てたメッセージです。・・・・・・・

先日、片仮名の指導にあたって「どう指導したらいいのか」「どの言葉を片仮名で書くように指導したらいいのだろうか」という質問をもらいました。アメリカで生活している子たちから見たら、身の回りで使っている言葉は全て日本で生活するに当たっては「外来語」になってしまうのです。



よくよく考えると実にややこしい話です。「すきやき」「すし」「まんが」「つなみ」これらはアメリカでも使用されている、日本生まれの言葉、アメリカから見た外来語です。（「アニメ」は？？？）

授業で指導するにあたり、基本は「日本から見た外来語を片仮名で表記する」です。視点を「日本に置き換えて見る」ということになります。おそらくアメリカ生まれの補習校の子供たちには、覚えなくてはならない余計な知識となるので面倒なことと思われるでしょう。

先日、教育相談員から教えていただいたことですが「りんご」という日本語を覚えるためには、①「りんご（日本語・平仮名）」②「apple（英語）」この２つの言葉に加えて、日本語と英語をつなぐ言葉としての３つ目の言葉、③「アップル（日本語・片仮名）」も覚えなくてはならないのだということです。結局３つの言葉を覚えることになります。子どもたちにとって、大変な苦労です。



しかし、日常会話の中には、数え切れない片仮名言葉が飛び交っています。教育の現場

ではどう受け止めればいいのでしょうか。例を挙げると「授業参観懇談会アンケート用紙」の下にあった提出先を「エントランス」と書いていましたところ、「玄関ではないのか」と、ご指摘を受け変更しました。



世の中の皆さんが使っている人数の多さに流され消えていく言葉､使う機会が減っている言葉があります。どちらでもいいというご意見もありますが、教育の現場では「消されてしまっては困る日本語」はあえて日本語で表現することを意識することが大切です。現地校では、「オーディトリアム」「ジム」と表現する施設を、校長は「講堂」と「体育館」のことかな、と言っていました。消え去っては困る言葉は「日本語」が原則です。さて「講堂」は国内では認知されているのでしょうか。「ジム」はいかがでしょうか。

ここは言葉を大切にする補習授業校です。消したくない日本語なら外来語で表現せずに（カレンダーを「暦・七曜表」テレビを「受像器」と言いましょうなんてことは申しません）少し意識して「言葉」を使ってみましょう。

ちなみに数字の「０」のことを皆さんはどのように発音していますか。私は「０」のことを授業中に「ゼロ」と表現したことはいまだかつて１度もありません。休み時間や放課後のざっくばらんな場面ではよく「ゼロ」と言って使いますが、授業中に教員として話をする場面は必ず「れい」と表現していました。

事実、算数の教科書(小学１年)では、「れい」とのみ指導しています。「ゼロ（英語）」はどの学年にも記載されていません。「日本らしい、伝統的な、日本ならではの言葉」を大切に児童生徒たちに教えていってやりたいものです。

参考までに「ら抜き言葉」もご注意ください。

・・・お知らせ・・・

本年度より学習時間の有効活用を主な目的として、配布文書の精査と削減に務めております。その一環としてこの（Big Apple）はホームページにてご覧下さい。



経費削減と

省資源についても

ご理解下さい。

蛇足・・・中国では「ダウンロード」を「下載」と表記します。(解説困難)